

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ 部分は外部評価の調査項目です ）

↑ 取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「受容・傾聴・共感」を常日頃から念頭に入れ、利用者本人の尊厳を守りながら看護・介護に携わる事を理念としている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的なミーティングにより、理念の実践に向け取り組んでいる。		理念を具体化し、それを目標にしながら定期的に理念が実施出来ているのか評価していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの入り口や事務所、ホールなどに理念を掲示している。家族へは入所時に書面にて伝え、定期的な家族会でも伝えるようにしている。又、地域の方々には、交流の際に口頭で伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	餅つき大会、夏祭り、クリスマス会等、地域の方も参加できるよう呼びかけている。その為普段でも、近所の子供たちが気軽に遊びに来たり、保育園児が散歩途中で遊びに来るなどの交流が自然と図れるようになっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会に参加しているし、自治会祭りのおみこしの応援などにも参加している。老人会の日帰り旅行にも参加。		

グループホームいちょうの杜津福（1F）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	久留米市のNOP久留米市介護福祉事業者協議会で、グループホーム部会事務局長を勤め、久留米地区の老人会や認知症家族への講習を行っている。また、認知症やそれ以外の方の困難事例に対し施設等の説明や紹介を行い、地域包括支援センターや市町村との情報交換の窓口を行っている。		地域住民の方に対しての介護教室を行う予定。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受けることで、自己評価をし出来ていないところを再確認することが出来る。他者からの評価により視点を変えて自ホームをみる事が出来、新たな発見と改善点の明確化につながる。		自己の反省点は謙虚に受け入れ改善を行い効果は高いと思う。しかし、過去の外部評価の際の評価の矛盾点を多く感じている。評価員のグループホームに対する理解と、個々のホームの運営方針等に対する柔軟な所見を得ることができれば、もっとよいものができあがると感じている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者のタイムスケジュール上、開催の頻度が低い。しかし、内容的には満足できるものがあり、改善等に役立っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	十分な連携を行いながら、市町村の相談等にも対応している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者と数名のスタッフは権利擁護事業や成年後見制度の研修を受けている。御家族に応じて必要であれば説明し、立ち会いを行った事もある。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は認知症対応型管理者研修やリーダー研修、その他で虐待の事について学んでいる。スタッフはミーティング時に説明を行っている。在宅に帰る際に虐待の危険性のある利用者については、スタッフがついて行ったり、虐待をしない親族への保護管理のもと外泊をして頂くなどの配慮を行っている。		

グループホームいちょうの杜津福（1F）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な時間取り、文書、口頭での説明を行い、理解納得出来るような体制を確保している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員を担当制にし、利用者との深い信頼関係を築くことの出来る環境にし、意見、不満等表せる様心がけている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、月末に一ヶ月の状態等の報告とご家族の希望等の聞き取りの電話を行っている。更に、請求書送付時、個人支出明細書を同封し、疑問がある場合は、領収証等を提示して説明を行っている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、月末の報告連絡の際、御家族からの意見、苦情等の有無の確認を行っている。更に、ホーム玄関に意見箱を設けている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、職員全員参加による会議を行い意見の交換を行い介護に反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事前に職員の希望休を聞き、介護を行うに對して十分な職員配置が出来るようにしている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はなく離職の場合、一人一人にきちんと説明、納得をして頂くようにしている。		

グループホームいちょうの杜津福（1F）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に対しては年齢の制限をなくしている。また、社会的な行事や介護等の講習、資格取得に対しても協力体制を十分にとっている。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ビデオ使用し、人権教育行っている。		今後も続けていく予定。
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度内部研修を行い、職員育成に取り組んでいる。認知症に対する研修会や、看取りに対する介護と看護の研修など、今後のグループホームの方向性を考えながら、十分な研修参加を行っている。		外部研修参加の機会を増やしていく。又、段階に応じた育成プランやマニュアル等を作成予定。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの相互訪問行っている。その中で、情報交換、相談等行っている。交流は食事会、ボーリング大会、勉強会等で交流を図っている。また、NPOの中では介護支援専門員の受験対策の講師等も行っている。		今後も、他の施設、グループホームの訪問を増やしていきたい。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	一日の中で休憩を必ず取る様にし、気分転換を図っている。また、事業所で勤労者福祉サービスに加入。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月に1～2回リーダー会議を行い、職員の苦情、又、心身の状態を把握している。		

グループホームいちょうの杜津福（1F）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学时、当ホームのより多くの情報を公開するようこころがけ、十分に知って頂ける環境を作り、更に、困った事、求めている事を聞いている。又、他施設に入所中の際は面接に行き、顔なじみとなり本人の不安を少しでも取り除くようにしている。希望があれば体験入所も行っている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学时、又は入所申込み際に、過去の情報や介護を行った際の話などを十分に聞きとり、ご家族の意向を重視した上で、不安が払拭できるような施設の説明を行っている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、十分な時間をとり、今後の本人の希望と、ご家族の希望を十分に話し合い、利用者の状態をできる限り把握することで、初期対応を円滑に行っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状態によっては、いきなりの入所ではなくデイ利用や、ショートでの宿泊等を無償で行い、環境の変化に対する利用者の心理的負担を軽減している。また部屋、物品等なじみの品を使用することで、環境の変化を最小限に抑えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活において、職員、入所者が話し合い、共に教えあいながら行っている。畑作業やおやつ作りなど出来ることに対して「教えること」で利用者の自信と役割を持っていただいている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子を、その都度説明し家族と話し合いながら支援方法を決めている。		

グループホームいちょうの杜津福（1F）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時、日常生活の様子を家族に話している。更に、家族との外泊、外出も行っている。		家族とのコミュニケーションを取るよう心がけている。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に連れて行ったり、面会があった場合会ってもらっている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホール内での娯楽時間を作り、積極的な参加を促し、利用者同士の会話等を側面的に見ながら把握している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	催し物の際、御家族に案内をし、ボランティア参加等をしていただいている。また、サービス終了後の側面的な相談等にも対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の認知度、身体的障害のレベルに合わせて暮らす中で、生活に支障のない範囲での希望や意志を尊重した生活を支援している。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報把握し理解を持って、本人の長年の生活習慣のパターンを尊重した介護プラン作成に心がけている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所者一人一人に対して有する力で出来る役割を持つことで一日の過ごし方を構築している。その中でも、日々変化する心身の状態を十分に把握している。		

グループホームいちょうの杜津福（1F）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、御家族はもちろん、スタッフ、ドクターの意見等もふまえて担当者会議を行い、多方面からみたアイデアを反映したケアプランを作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1度はケアプランの見直しを行い、状況変化がみられる場合はその都度ケアプランの立て直しを行う。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別にカルテを用意し本人の情報がすべて分かるよう記録にのこしている。その情報を共有しながら実践や介護計画に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行事や日程にかかわらず、本人の希望時は一職員と行動を共にしたり、なるべく本人の希望に応じながら対応している。また、御家族の要望にも応えられるようにしている。例：食事、宿泊、面会時間など。その他、外出で利用者の状態が不安である場合は、御家族、利用者、職員とで外出する事もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	例えば、催し物をする際はボランティアの方をお願いする場合もある。慰問も年に何度かお願いしている。消防は年に一度消防訓練を利用者を交えて行っている。近所の保育園へは催し物があれば参加してもらったり、こちらがお誘いを受ければ参加させて頂いている。		徘徊老人に対する支援として、消防所、警察所等に徘徊する方の写真を提示するよう検討している。今後の目標として教育機関や他の福祉施設へ、利用者・スタッフとでボランティアとしての参加を検討したい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当ホームだけで解決手段を考えるのではなく、地域の他のケアマネジャーに相談を持ちかけることもある。又、その逆もある。その他、うちでは生活を中心としたりハピリしかできないが、必要があればデイケアの利用も行っている。訪問入浴、訪問整体などの利用も行っている。		

グループホームいちょうの杜津福（1F）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターに対して広く窓口を開き、十分な情報交換と意見交換を行っている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は本人、ご家族が選択出来るようにしている。本人の病状に応じた医療機関に看護師が受診に連れて行くことで、専門的指導等にも十分対応できる状態を作り、ご家族にも十分な説明と相談を受けることが出来る環境を整備している。又、往診の依頼もしている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談したい内容をNSにより伝えてもらい、NSを通じて教えてもらったり、Dr往診時に気軽にスタッフが相談や質問をしたりしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員のうち2名を看護師にすることで利用者・ご家族の両方に馴染みの関係を構築している。当然、日常の健康管理から急変時の対応までを十分に対応できることでの安心感も提供できている。必要に応じては訪問看護ステーションの利用も行っている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は協力医療機関、家族、本人、ホームの看護師とで話し合いを行い、早期退院を行えるようにする。入院中はご家族が面会に行けなくても看護師やスタッフが面会に行っており、その都度利用者の状態確認を行うようにしている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に関しては利用者入所時にご家族に説明を行っている。また、センター方式を利用し、定期的に利用者の終末期に対する考えを利用者やご家族に何うようにしている。終末期に入ってから、医師からも終末期をどう過ごすのか、ご家族と話し合う場を作ってもらうようにしている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に利用者がより良く暮らす為に、本人がしたいこと、家族がしてほしいことを中心に、医師の指示を受けながら行っている。最期だが に行きたい。最期だが展覧会をしたい。最期だが屋台に行きたい。最期だが口から物を食べたいなど…。医療と本人の希望が混じり合う所での支援を行っている。		

グループホームいちょうの杜津福（1F）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族やその他関係者と密に連絡を取り、本人が不安のないよう住み替えが出来る環境作りを行っている。又、その後のその方の状況を時折連絡を取り合ったり、その場所に向かうなどの支援も行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の自尊心を傷つけないよう、本人を尊重出来るような環境作り心がけている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「選択の出来る環境」作りを心がけている。耳が不自由であればホワイトボードで理解を求めたり、言葉がでなければ文字盤で気持ちの表出を行ってもらう。その人に応じた対応をおこなっている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望をレクや月の行事に取り入れ、参加できるようにしている。その日その日を利用者の希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容室を確保しているの、そこで月二回の理容を行えるようにしている。(移動理美容) 本人が望めば馴染みの美容室や理髪店へ送迎を行う。爪を切って本人が望めばマニキュアを塗る。行事があれば化粧品もスタッフがお手伝いしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事の出来る方は一緒に料理の手伝いや片付けを行っている。利用者の希望があれば、その日のメニューが決まっても変更する場合もある。		

グループホームいちょうの杜津福（1F）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	事業所の条件に基づき、嗜好品は本人の希望に合わせて取り入れている。以前は毎日晩酌している方もおられた。たばこも喫煙場所を決め吸って頂いている。おやつは2度出しているが、1度はかごの中に色々なお菓子をいれ選んでもらえるようにしている。また、手作りのおやつも出している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の自立を目指すため一人一人の排泄パターンを調べ失禁をへらすよう支援している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を聞き、その時のタイミングに合わせて入浴を行っている。又、入浴拒否のある方には温泉施設へ連れ出すなどの工夫もおこなっている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせ、自室にて休息をとって頂くこともあれば、和室で横になられることもある。就寝時間も個人に合わせているため決めていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、フルにその力を活かせるような場を提供している。(家事参加、作業参加、レクリエーション、外出等)		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、御家族と話し合い希望に応じ本人にお金を渡している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人に合った支援方法(外出、買い物、散歩)を考慮し、安全を図りながら実践している。		

グループホームいちょうの杜津福（1F）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に、一人一人の希望を聞き出来る限り実行している。平均月3～4回外出の機会を設けている。特に、旬の場所に出かけ、利用者に喜んでいただける様支援している。希望があれば御家族と共に墓参りや食事、葬儀どうにも出かけている。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より、希望あった場合支援している。御家族より、希望あった場合や、なかなか面会に来れない御家族の場合、こちらから定期的に電話をかけている。又、年賀状など季節のお便りは必ず行っている。		本人もしくは、御家族より手紙の希望あった場合支援していく。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者が、気軽に訪問することが出来るよう玄関や駐車場などの環境作りには気を配っている。例えば、お花やハーブなどを、栽培し明るい雰囲気作りを心かけている。ホーム内においては、和の物や季節のディスプレイをし親しみやすい環境をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアル研修行っているため、拘束は行っていない。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やホール入り口が見える位置に、常時職員がいるよう配置している。出入りする方に必ず声をかけるようにしている。居室に関しては、本人の希望があれば鍵を渡している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して、利用者一人一人の所在地や様子を把握出来る様職員の配置を決めている。居室にいる場合、安全確認の為に定期的に様子を見に行くが、プライバシー保護の為に必要以上は声かけせず見守りのみを行うようにしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じ保管方法を考慮している。個人の私物においては、本人、御家族、職員で十分話し合っている。		

グループホームいちょうの杜津福（1F）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書を作成し会議にて検討し職員一人一人の危険意識を高め、事故防止に取り組んでいる。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員、緊急時の対応が出来るようNS指示の元、救急マニュアル研修を行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1度、消防所と連携を取り消防訓練を行っている。今年9月に行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時、更に入所者の状況は常に変化するため、定期的に起こりえる事故の説明を家族に行い理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日1回朝バイタル測定を行っている。異変発見時は、速やかにバイタル測定し必ずNS報告し指示を仰いでいる。情報の共有として、朝のミーティングや申し送りノートを利用し、日中、夜間の利用者の様子を把握出来るようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人のファイルに挟んでおり職員が常時確認出来るようにしている。更に、内服変更時にはNSより詳しく説明があり、職員全員が把握出来るようにしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝ラジオ体操を行い、身体を動かすよう心かけている。更に、一人一人の水分摂取量の把握をし繊維質を、より多く摂取出来るよう支援している。便秘時は、Dr報告し内服の調節を行う。		

グループホームいちょうの杜津福（1F）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人の状態に応じた支援を行い、お茶のカテキンによる消毒を行っている。定期的に、訪問歯科による口腔ケアを行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	Dr.Nsの指示に基づき、個人の体調に合わせ準備している。個人の習慣や好みについては、家族、職員で話し合い情報収集し個々にあった支援を心がけている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	Nsによる内部研修を行い、感染予防の意識の向上に努めている。常時、清潔保持を心がけている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に、調理場を清潔に保つ様心かけ定期的に消毒を行っている。食材については、長期保存の無い新鮮な物を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇やプランターに、季節の花やハーブを栽培している。ハーブはアロマテラピーとして利用している。更に、季節事の飾りをし、明るい雰囲気作りをしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎のディスプレイを行い、季節の花を飾り季節感を出している。不快な音、光の無いよう注意を払い、利用者の変化を見逃さないようこころかけている。		

グループホームいちょうの杜津福（1F）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアはソファー、テーブル、和室に分かれており、テレビ鑑賞や雑談、読書等好きなことをされながら過ごしておられる。独りになりたい方は自室へ行かれる。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人馴染みの家具、仏壇等を持参され、自分の生活空間を作っておられる。入所時に家具の配置などは本人・御家族と行うようにしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冬場でも換気はこまめに行っている。個人の部屋に応じて換気扇や消臭剤を使用する場合もある。又、3ヶ月に一度程度はすべての部屋をオゾン殺菌するようにしている。トイレは常時オゾン殺菌を行うようにしている。便の付着した汚物(捨てられる物)は新聞に包んで捨てるようにしている。温度調整は温湿度計を設置し、エアコン、窓の開閉により調整を行う。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事は立つことの出来る方は台所で、出来ない方は座った状態で参加されたりする。洗濯等も利用者が干せる高さにしてあるし、段差があった1Fのベランダも危なくないようフェンスを付けている。スタッフも利用者の出来ない所の介護に心がけるよう話し合っている。		車椅子の方がもう少し自力にて移動できるような支援を考えたい。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一般的に混乱のおそれがある物に関しては混乱をしないように工夫している。混乱する物が一人一人違う為、その都度対処している。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りに畑を設けて農園作りや、花壇に花を植えるなど楽しんでいる。		

番号	項目	取り組みの成果 （該当する番号欄に 印をつけること）	
サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

グループホームいちょうの杜津福（1F）

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない